

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

- 1 私たちは、子供たちを守り、育てます。
- 2 私たちは、法令等を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を許しません。
- 4 私たちは、地域に開かれた学校にします。

不祥事根絶のための行動計画

原小の決意表明
自分の一歩は 子どもの一歩
一緒に学び続けよう！



廿日市市立原小学校
作成責任者 校長 青木 暁夫

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	○服務研修の足跡が残りにくい。 ○研修内容においてどのような法令法規に抵触するのかが明確になっておらず、危機感が薄い状態にある。 ○教職員の規範意識が各個人にゆだねられている。	○基本に立ちもどり、県の資料をベースとして研修を実施して実際に起きた事例をとりあげ、自分事として実感できるようにする。 ○各服務研修において法令法規を確認することで、危機感を持って行動する。 ○全ての教職員を対象に服務研修資料のアンケート調査を行い、自分の心を見つめたり変化を感じたりすることを通して、自己を俯瞰的に見つめることができるようにする。	○服務研修ファイルを個人に配布し、いつものような研修を行ったのか視覚化する。 ○各服務研修において法令法規を確認する。 ○全ての教職員を対象に服務研修資料のアンケート調査を行い、前回と変化があるか個人が確認できるようにし自己の変化を比較する。	○服務研修ファイルを研修ごとに確認する。 ○研修終了後、個人で一覧に内容と感想を記入する。 ○学期に1回、服務研修資料のアンケート調査を行う。
学校組織としての不祥事防止体制の確立 ※教務・研究部	○学年会集団がないため、個人の思いで仕事を進めがちである。孤立してしまいがちになる。 ○分掌の仕事も多いため、個人で仕事を抱え込んでしまいがちになる。	○教職員が自分のクラスのことや分掌の仕事について話し合う機会を設ける。 ○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、組織で仕事を進めることができるようにする。	○クラスの児童についての話し合いをする場を設ける。金曜日の連絡会のフリースペースの充実を図る。 ○周りが「一緒にやろう」「手伝うよ」という声を掛け、一人で作業する場を少なくする。（分掌を2人体制にする） ○部会の時に、次の行事の日程などを確認するだけでなく、準備を含めた計画（教務・研究部の動き）を決めて、確認する。	○行事終了のたびに反省を行い、みんなで動けたかどうか振り返りをする。 ○反省用紙を共有する。
相談体制の充実 ※指導・安全部	○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知が年度当初のみであり、認知度が低い。 ○単一学級のため、学年の仕事を一人で行うため相談機会が少ない。	○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行っていく。 ○専門的な知識をもつSCたSSWを招聘した研修を設け、児童理解に努める。 ○低・中・高学年、特別支援学級のチーム担任制を活用し、相談しやすい体制をつくる。	○学校だよりで保護者等に定期的に周知する。 ○各学級の自由な授業参観を継続する。 ○困ったことがあれば相談するよう、教職員に常に促していく。 ○教職員が困っている場面を見かけたら、進んで関わる体制をつくる。 ○管理職が教職員一人一人に声かけをする。	○金曜日の連絡会やFreeトークで良いところや課題など気付きを出し合う。

不祥事根絶
のための行